

## 伝えたい日常生活の中での平和への祈り

長野県議会議員 宮澤敏文

童話の神様アンゼルセンの生誕地オーデッセイ島で巨匠の子供への細やかな息遣いに触れゆったりとした余韻を楽しみながらコペンハーゲン市に戻り、西ベルリン行きの夜行寝台に乗車する。

汽車の揺れに心地よく眠り朝焼けで目覚めると、産業振興が創りだすドイツ国の元気が車窓より飛び込んでくる。第二次大戦の敗北で二つに分断され、街の中を厚く高いコンクリートの壁が東西を分けるベルリン駅に汽車は静かに滑り込んだ。

早速ロッカーに入らない大きなリックサックを駅の一時預り所に預け、構内の売店で求めた黒パンをかじりながら市街地へ入った。

緑が多く、整備された活気のある街並みに、さすが躍進著しい旧西ドイツの中心都市だと感心しながら、一日ビザを取得し、当時共産圏だった東ベルリン市に入ると通りを歩く人々もあまりおらず閑散としていた。

時間を惜しむように、歴史がそのままに残る東ベルリン市を歩き回るとビルの壁あちらこちらに大戦時の弾丸のあとが当時のままに残り、街角にはさり気なく、そこで命を落とされた無名戦士の慰霊の花束が随所に飾られていた。

「大戦から30年近くたっているのに」忘れることなく、戦争で犠牲になった無名戦士を称え感謝するとともに、戦争を二度と繰り返さないというドイツ人の強い意志が伝わってくる。

その街角ごとの無名戦士の慰霊に自然と手を合わせ、敬虔な気持ちにさせていただいたことを今から35年以上も昔の昭和50年ころのことなのになのに鮮明に思い出す。

その後安曇野スイス村づくりや地域主体の行政制度の研修にヨーロッパの都市にお伺いしても、どの都市の街角で、このような無名戦士の墓や惨事があった場所に花を手向け、維持されている光景によく遭遇する。

戦争には必ず一般市民の犠牲がある。強制的に戦争にかり出され、家族や国のために亡くなられた名も知れない一般市民戦士の御霊の冥福を祈るとともに、今の平和のありがたさに感謝し、二度と戦争は起こしてはならないという思いが、大戦の悲劇以来60数年を経過した今も、日常生活の中で受け継がれる強い一般市民の誓いと意思の現れと思って、ヨーロッパの諸国を尊敬している。

今年も広島のパンドラの箱を開く日が来た。

20年度に新たに亡くなられた5000名を超える広島で被爆された御霊の

ご冥福をお祈りするとともに、広島で被爆された26万人を超える御霊に心から合掌し、二度とこのような惨事を起こしてはならないと今を生かさせていただく者たちが誓い合うときだと思う。

そして8月8日は長崎の被爆の日である。

今年はとりわけ、外国の大使館関係者の出席が多いとの報道に核兵器廃絶の運動の高まりを感じず。

また今春、世界で唯一核兵器を使った国家としてアメリカ合衆国大統領が「核兵器の無い社会の実現」を宣言した。

20世紀は将にアメリカの時代「アメリカの法は世界の法である」と自負していたアメリカ合衆国大統領の発言である。時代の大きな流れを感じながら、オバマさんの勇気に敬意を申し上げたい。

誰もが平和を願い、美しい水の惑星地球で共存を目指しているのに、なぜ核兵器という最も悲惨な結果をもたらす武器が存在するのだろうか。

将に今、地球に生活するもの全てが本気で考え、普通に核兵器を無くすために全力を尽くすときが来ている気がしてならない。

平和民族である日本にも各地域の神社に伺うとその片隅に建てられた慰霊碑が静かに眠っている。あれだけ多くの一般国民が戦場に送られたそして多くの方々が尊い命を落とされたのだ。幼くして親をなくされた方、15歳ころのまだ成人しない少年特攻隊の人たちは、帰りの燃料を持たされず突撃し太平洋の藻屑と消えた。日本人はもっと戦争の悲劇を語っていいのではないかと思いつけている。

鹿児島県の知覧には、短い命いっぱい生きて少年特攻隊のせつない遺書が並ぶ、みんな前向きで潔い。しかしその行間にこめられた思いに身が震える。戦争は残酷で悲しいことであること後世の人たちに伝えることはもっとも大切なことだと思う。

日本書記には、日本国は武器を持たず、稲穂を持って統治した平和民族との内容が記されている。

先ほど35年前の体験を記したが、私が数ヶ月のヨーロッパを訪問していた時、日本赤軍派のオランダ国のハーブ爆破事件が起こり、非核三原則を堅持し続けてきた日本国の平和への姿勢が評価され、当時の佐藤栄作総理大臣に代表してノーベル平和賞が贈られた。

私このすごいニュースをオスロ市で聞いた。この報道を知った北欧の市民の

方々が、街で知り合った二十歳を越えたばかりの日本人の学生に「おめでとう」  
「おめでとう」と笑顔で気楽に声をかけて称えていただいたことを昨日のこと  
のように思い出す。

世界で唯一の被爆国として、非核三原則をしっかりと子孫に伝え、核兵器の  
廃絶を世界に訴え続けていかなければならない。

「凜として 悲惨な思い 伝え行く」星辰